

Q

産業振興と財源確保について

A

元気あふれる鶴ヶ島を築く

大曾根英明 議員

質問一 第5次鶴ヶ島市総合計画のリーディングプロジェクトに期待するものとして、

ア 今後の事業展開における税収との関連について。

イ 継続性について。

二 市の産業振興に関して、

ア 産業の現状と将来の展望は。

イ まちおこし、特産品及び第6次産業について。

三 運動公園の利用については。

答弁一 **ア** **(市長)** 農業大学校の跡地に企業を誘致し、これによる雇用の創出や生産年齢人口の確保によって、法人市民税、固定資産税、個人市民税の増収を見込む。

イ 地域の魅力を高め、若い世代の定住を促進し、持続的なまちの活力につなげていく。

二 **ア** 市の産業を活性化させ、

まちの活力を生み出すことが課題である。水士里の交流圏の構築による企業誘致を図り、職住接近の実現を通じて、産業振興を進める。

イ 農業の第6次産業化へ向け、加工、販売まで手がける農業者を発掘支援する。

三 農業大学校跡地の活用と連動して、運動公園の西側の樹林地、水辺の保全や活用、運動公園二期整備計画を一体のものとして構想している。

Q 移動市長室の成果について

A 意見交換を行う市民参画の手法

杉田 恭之 議員

移動市長室の成果として、

質問一 平成18年度と24年度の開催団体数は。

二 18年度と24年度の延べ参加人数は。

三 本年度の主な要望や意見は。

四 要望や意見の市政への反映は。

答弁一 **(市長)** 移動市長室は、

市長が直接住民のもとに向いて地域の課題や市政運営について意見交換を行う市民参画の手法の一つである。

18年度は全82自治会で開催した。24年度は全84自治会のうち、74自治会で開催をしている。ほかに市民からの開催申込みが1件あり、

開催した。

二 18年度は延べ939人、24年度は3月2日現在で、自治会分が延べ533人、市民申込分が12人、合計で545人である。

三 都市整備関係では、土地区画整理事業に伴う道路等の早期整備歩道の段差解消など。コミュニティ関係では、自治会加入者の減少傾向への対策支援など。ほかにごみ置場の設置や空き家問題など生活環境に関することなどである。

四 すぐに対応できるものは、その都度着手している。予算等を伴うものは、優先順位を考えながら計画的に対応している。



富士見自治会館での移動市長室